

同窓会論

短く書きます。

いうまでもなく、「同窓会」というのは、同じ学校や学び舎、あるいはともに語ったり、知識や技術などを修行したりした同じ学年や、あるいは一緒に仕事をしていた同輩・先輩・同胞が数年数十年を経て集まり、語り合う集団の集まり、のことである。・・・だから同じ年齢や性別に限らない。

そのため全く異なる経験をしていたり、まったく異なる見方をしていたり、何事か啓発されるところがあるが、共通の基準は、同じ学び舎で学んだことや同じ職場で仕事をしていたことである。

もう何十年になるが、父親が満洲時代のことを偲ぶ会に出席したが、嬉々としていた。鳥取かどこかだったのだが、2年に1回というのを、もうこの年だから毎年にして欲しい、とみんなが賛成する。幾度かあちこちに行っていたが、病を得てからは参加したくてもできなくなった。

嗤い話にもならない「同窓会」の話があって、10年にもなろうか、ある女性同窓生が何年ぶりに旧友と学生時代を振り返って語ろう、と参加したところ、見知らぬ女性が、半分裸で踊っている。彼女は、来るところを間違えたのか、とうろたえたが、なかに、知った顔があって間違いではないことがわかった。彼女に言わせると、「いつものメンバーが、勝手に集まって、好き勝手なことをしている。これは同窓会ではない。二度とは来ない。」

昨年のことだったか、友人に誘われ、「同窓会」に参加した。懐かしい顔に会えた（既述）だけが収穫だった。・・・こんなようけ女の子が、同期にいたか？と尋ねると、嫁だという。エ〜〜〜！ 嫁も嫁だが、特殊な事情がない限り、亭主の同窓会に出席するのは、まあ、バカです。ほかに行くところがないんかいな。

最後は、「まるく座って青春を語り合ったわけでもないのに」あるいは、そんなことをしなかったのに、「学生時代」やら歌わせられる。恥ずかしくないのか？

この稿は、小生が出席した時の女性幹事のみを送るつもりであったが、彼

女は、「平気で（かどうかわからないが）いたのか」、この場に相応しくなく、受付のために参加していただけないか、と思った。出席者の二言目は「恩師」である。それほど世話になった教師が、どのくらいいた？ ある数学の女性教師など、意地悪やのに、優秀な学生に翻弄されていた、という。ざまあみろ！この手の話はいくらでもあるのではないか。

念のため、手紙を送った幹事さんからは、なんの反応もない。完全無視でした。当然ですけど。

さらにさらに、せっかく久しぶりに参加してきた同窓生に対し、次回参加する方法を知らせていない。というより「知らせようとしていない」のではないか。ボクは、今もって参加する方法を知らない。・・・・結構現地で探したんですが。

いっそ、同窓会という名称を棚上げし、同好会、貧しい規模の園遊会、あるいは、小学生の学芸会もどきに名前を変えたらどうだろう。その方がふさわしい。

ご心配召さるな、ご同輩。いずれにせよ二度と参加することはないだろう、学芸会もどきのみなさん。

この方、どちら？と興味もなく、みたこともない婆さんに、なぜオレが挨拶せなあかんねん。・・・・おれを知らん奴はモグリやで。ゆうとくけど、オレは、品のない女が嫌いやねん！

おまけがある。われわれが卒業した高校に入学、あるいは卒業しただけで自慢している馬鹿者がいるのだから、「同窓会」を無暗に使用しないでほしい。

今年だったか、大学時代の同窓会があった。ここでは、近況を話したり、ちょっとしたコツを教え合ったり、参加するだけで意義のある会合になった。高校時代の同窓会もどきからみたら、・・・・

しばらくしたら、「オレ、腰が痛いねん」とか「ワタシは膝や」になったりして。

令和 2
年 2 月
21 日